

【2019年度 学修成果に関する「卒業時アンケート」結果の講評】

【 食物栄養学科 】

設問	講評	課題	備考	
問2	1) 建学の精神「真心・努力・奉仕・感謝」を意識した行動ができましたか。	88%の学生が建学の四大精神を意識した行動ができた」と回答した。真心、努力、奉仕、感謝は社会に出てからも、人として大切にしていけないといけない。卒業後も本学の建学の四大精神を育成・活用してほしい。	41名の学生のうち5名(12%)が建学の四大精神を意識した行動で「あまりできなかった」と回答した。全学生が四大精神を家庭や職場で行動できるように、指導をする必要がある。	
	2) 文章理解・コミュニケーションスキル・情報処理スキル等が身についたと思いますか。	93%の学生が身についたと回答した。グループディスカッション、プレゼンテーション、わかりやすいレポート作成、発表用パワーポイント作成等、多くのスキルを身につけることができたと思われる。	41名の学生のうち3名(7%)が「あまり身につかなかった」と回答した。文書理解を始めコミュニケーションスキル等が身につくよう授業内容を教職員間で検討する必要がある。	
	3) 学んだ知識等を活用して、課題を解決する力が身につきましたか。	95%と大多数の学生が課題解決力を身につけることができた」と回答した。2年間の学修の成果として大いに評価できるとの理解している。	「あまりできなかった」を選択した学生が5%(2名)であった。Pisa型学力を教育方針にしているため、全学生が課題を解決する力についてと答える授業内容にする必要がある。	
	4) 教養科目(基礎科目)における知識の修得と理解ができましたか。	95%の学生が「知識の修得と理解ができた」を選択したので、一定の成果は得たと理解している。しかし、基礎科目の約8割は選択科目であり、学生自身が希望する科目を選択していることから考えると100%が望ましい値と思う。	希望する科目を選択しているにもかかわらず、「あまりできなかった」という選択が5%(2名)であった。学修意欲を高める授業の提供を考える必要がある。	
	5) チームワークを意識した行動ができましたか。	98%の学生が「チームワークを意識した行動ができた」と回答した。実験・実習はもとより、食育教室やお菓子グランプリの運営、産学連携事業等に積極的に取り組んできた成果とみている。	3%(1名)の学生が「あまりできなかった」を選択した。集団の中には、グループ活動が苦手な学生もいることを理解した上で、今後は全員が問題なくグループワークが出来る授業内容を検討する必要がある。	100%に近い数値で学生がチームワークを意識した行動ができた」と回答している。
	6) 専門的な知識や技術・技能の修得ができましたか。	98%の学生が専門知識・技能を修得できたようである。2年間で修得した知識・技術・技能を社会に出て、さらに高められるように、生涯にわたって学習があることを理解してほしい。	3%(1名)の学生が「あまりできなかった」を選択した。栄養士として給食の現場で力を発揮するために、全学生が専門知識や技能が修得できた」と回答してくれるよう授業内容を検討する必要がある。	100%に近い数値で学生が専門知識、技術等を修得できた」と回答している。
問3	学習に対する成績評価は満足できるものでしたか。	95%の学生が成績評価に満足しているため、適切な成績評価ができていると考えている。	5%(2名)の学生は「やや不満」を選択した。全学生が自分の成績評価に納得のいくように、教員は成績評価の仕方を厳格化する必要がある。	100%に近い数値で学生が成績評価に満足できた」と回答している。
問4	2年間の学修が就職活動に有用でしたか。	90%の学生が就職活動に有用と回答した。83%が栄養士職に、13%が医療事務職、5%が資格に関係のない職種に就職する割合から、このような結果になったものと思われる。今後も取得した資格を活かして就職することを助言していく。	10%(4名)の学生は「あまり有用ではない」と回答したため、これらの意見や考えを集約していき、改善に繋げる必要がある。	
問5	就職活動は、自ら進んで活動(行動)できましたか。	98%の学生は、進んで就職活動ができた」と回答した。社会人基礎力の主体性、実行力、働きかけ力等の要素を入学時から意識して指導し、多くの学生が就職活動を積極的に取り組めたと評価している。	「あまりできなかった」という学生が3%(1名)であった。就職は自身が行動しないと内定獲得には繋がらないことを説明し、自ら動く指導をしているが、今後は積極的に就活ができない学生のサポート法を検討する必要がある。	
問6	取得した資格の番号を回答してください。	栄養士 100%(41名)、医事管理士 34%(14名)、医療管理秘書士 78%(32名)であった。本学科は栄養士養成課程であるため、栄養士の全員取得は評価として満足している。医療事務系の資格検定受験者も全員合格を得ているので、授業内容等は的確であったと分析している。	次年度も栄養士取得 100%を目標とするとともに、栄養士実力認定試験においても、他の栄養士養成施設より5ポイント程度高い結果が常時得られるような授業内容や対策講座内容を検討し、実施していく必要がある。	栄養士免許取得率100%、医療事務系資格も受験者全員合格は満足のいく結果であった。
問7	卒業に向けて当初の目標が達成できましたか。	学生全員(100%)が目標の達成に対し、「非常にできた」「できた」と回答したため、嬉しい評価を得たと満足している。今後は、「できた」を選択した学生が「非常にできた」を選んでくれるよう基礎科目、専門科目の内容を再確認していく。	今後は「できた」を選択した学生の半数が「非常にできた」を選んでくれるよう授業内容、課外活動等の内容や運営方法、産学連携事業の活動方法等を検討する必要がある。	100%の学生が当初の目標が達成できた」と回答している。
問8	2年間で振り返って成長できましたか。	100%の学生が成長できた」と回答した。多くの学生が自身の成長を感じることができ、有意義な2年間で過ごすことができたことが推察された。教員からみても、授業や行事を積極的に実践し、様々な力が身についたことを実感している。	今後は「できた」と回答した学生の半数が「非常にできた」を選んでくれるよう授業、課外活動、大学生活等検討する必要がある。	100%の学生が2年間で振り返って、成長ができた」と回答している。

※問6の資格：1.栄養士 2.幼稚園教諭 3.保育士 4.図書館司書 5.介護職員初任者研修 6.情報処理士 7.ビジネス実務士 8.ウェブデザイン実務士
9.上級秘書士(メディカル) 10.レクリエーションインストラクター 11.スポーツインストラクター 12.フードスペシャリスト 13.ピアヘルパー
14.医事管理士 15.医療管理秘書士 16.その他

(記載について) 講評： 学修成果に関して、アンケート結果が妥当であるか、評価を加えてください。

課題： 評価が高ければ、さらなる支援策はどのようなか、課題として記してください。

一方、評価が低ければ、その改善対応策を課題として挙げてください。

備考： アンケート結果から、短大広報として活用できる具体的な内容を備考に記してください。